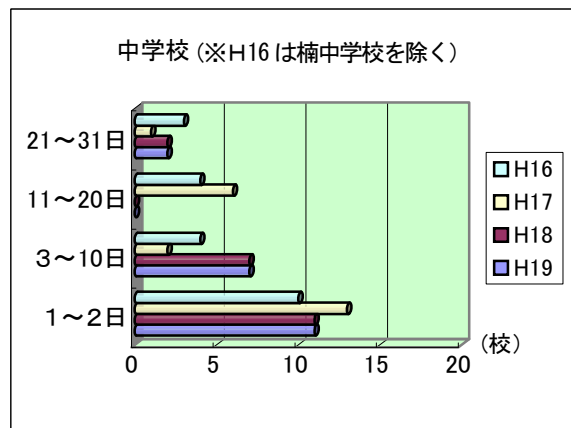
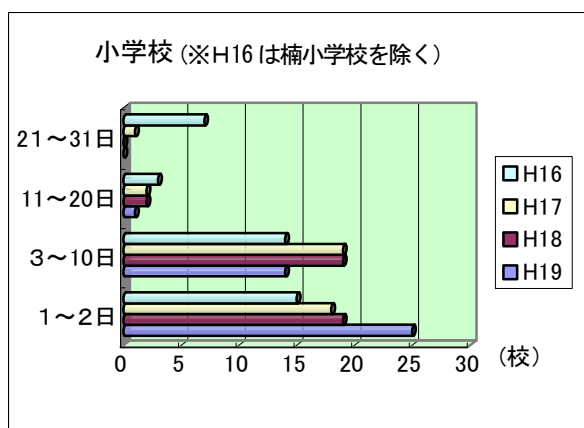


ねらい

子どもたちの豊かな人間性を育むために、体験活動等を生かしながら学校では教育活動全体を通じて道徳教育を進めています。しかし、道徳教育は学校だけでなく、家庭や地域と連携しながら進めていくことが必要です。そこで、子どもの健全な育成について、家庭や地域と学校とが共に考えていくことをねらいにして、道徳の授業を積極的に公開しています。

現状

- 平成19年度 体験活動等を生かした道徳の時間の授業を年間2回以上実施した学級の割合  
【小学校】 60% 【中学校】 73%
  - ・ 総合的な学習の時間や特別活動での体験をもとにして関連性のある資料を用いたり、参加体験型学習を取り入れたりしながら、道徳教育の取組を進めています。
- 平成16～19年度の道徳の授業公開実施期間



- ・ 学校公開日や授業参観日に道徳の授業公開を位置付け、全学級で公開する学校が増えています。（平成19年度一小39校、中16校）道徳の授業を積極的に公開したり、授業の内容を学校だよりや学年だより、ホームページなどで発信したりすることで、「授業の様子や資料をもとに家庭で話し合うきっかけとなる」などといった学校の道徳教育の取組について保護者や地域等から理解、評価をいただく声が寄せられています。

課題（今後の方向）

- 道徳的実践力を育てるために、実生活や実社会とのかかわりを深め、さまざまな体験活動を生かした道徳教育の推進を図ります。
- 道徳の授業公開を継続するとともに、地域の人や保護者に授業参加や協力を得ていきます。
- 道徳教育を一層充実させるために、各教科等との関連を図って指導内容を効果的に配列した年間指導計画の作成を行うとともに、各校に配布されている「実践事例集Ⅰ」や「実践事例集Ⅱ」を参考にして取組を進めます。
- 子どもたちに人間としてよりよく生きようとする態度を身につけさせるために、日常生活の中で道徳的な心情や判断力、実践意欲等について継続的に指導するとともに、子どもたちの言動について適切な評価を行い、次の指導に生かします。